

加齢による物忘れと認知症の違い



年を取ると誰でも物忘れが起こります。つい先ほどまで行っていたことを忘れてしまったり、なかなか新しいことを覚えられなかったりします。

しかし、これは加齢によるものなので、ある程度は仕方ありません。

物忘れは誰にでも表れる老化現象の一つです。

物忘れの特徴としては、「**体験の一部を忘れていること**」があります。

また、何かの拍子に思い出すこともあります。

この場合は認知症ではないため心配はいりません。

認知症では「体験の全てを忘れていること」が特徴となっています。

している自覚がなかったり、時間や場所が分からなくなったりします。

- 加齢によるもの忘れ
➡ 誰にでも起こる老化現象の一つ
- 体験の一部を忘れている



- 認知症による記憶障害
➡ 脳の病気によって起こる
- 体験の全てを忘れている

ご飯まだ?



項目	物忘れ	認知症
原因	加齢	脳の病気
自覚	物忘れがあることを自覚	物忘れを自覚していない
記憶	体験の一部を忘れる (きっかけがあれば思い出せる)	体験の全てを忘れる (完全に記憶が抜け落ちている)
日常生活への支障	特に支障はない	支障がある
症状の進行	進行性はあまりない	年単位で進行
医療機関を受信する場合	心配になって自分で行く	多くは家族に付き添われて行く

認知症は脳の病気です。認知症では後天的に脳に何らかの障害が起こり、認知機能が低下してしまいます。

脳が傷害されることで「同じことを何度も言う」など

記憶・判断に関わる機能が鈍くなり、

最終的には体が思うように動かさなくなって

寝たきりとなります。このように、脳が障害されてしまうと

日常生活に支障が出てしまいます。

このとき、認知症の初期における特徴として

「最近の出来事(短期記憶)は障害されるが、**認知症を発症**

があります。そのため、若い時の印象深い出来事などの長期的な記憶は残っています。

認知症の重症度と症状



認知症の方への接し方: 認知症の方が認識できるのは「**現在**」に関するのみです。これを理解することがとても重要になります。そのため、「昨日も言ったでしょ!!」と怒ったとしても、認知症の患者さんは過去と現在を繋げることが難しいので意味がありません。「大切なのは現在である」という事を認識せずに叱ってしまう。すると、**不安感だけではなくうつ状態や攻撃的行動、徘徊などの周辺症状が表れやすくなってしまいます。**

「認知症だから、何も感じないだろう」という誤解が生まれることもありますが、認知症の患者さんは健常人と同じように目で見て、耳で聞き、**相手の感情を読み取っています。言葉などが不自由になるほど、その場の雰囲気や相手の表情などに敏感になります。**